

新たなパンデミックに備える自治体保健師の リスクコミュニケーションに関する研究

看護学科 地域看護学領域 青木 亜砂子 講師

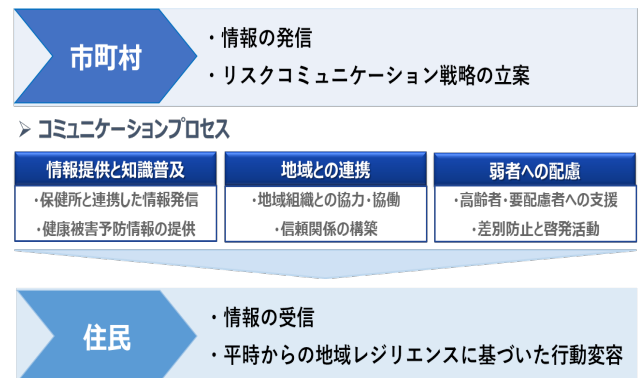


Q. どのような研究をされていますか？

A. 新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、公衆衛生上の様々な課題を残しました。

その一つに差別や偏見という課題があったと思います。感染症対策におけるリスクコミュニケーションは、政府や都道府県が情報提供を行っていましたが、未知のウイルスに対する恐怖や不安の前に、人々の不満や不信感が高まることがあります。人々のリスク認識（リスクの受け止め方）が異なる中で情報提供には難しさが伴います。このような場合の、リスクコミュニケーションは、より生活環境の身近なところで行われることに利点があると思われます。

住民の身近な市町村で働く保健師を対象として、パンデミック時に市町村保健師が必要とする具体的なリスクコミュニケーション戦略を明らかにし、パンデミックという特殊状況下を考慮した市町村保健師のリスク管理体制の構築を図るための調査研究を新たに行います。



Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. これまでは、感染症とは全く異なる研究をしてきました。子ども虐待予防の観点からパートナーが妊娠期にある父親を対象とした調査研究をしてきました。これまでの自治体で行われている母子保健事業の対象は主に母親でしたが、これからは、父親も対象に行われる必要があること、さらに仕事を持つ父親が参加できるようなツールの開発や父親と母親が、課題に直面した時にどのようにコミュニケーションを促進し、課題に対処していくか、その方法に関する実証研究をしてきました。

Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 感染症に関する研究では、今回の COVID-19 によるパンデミックで市町村保健師が果たしたリスクコミュニケーション上の経験を明らかにし、次のパンデミックに備え市町村保健師が円滑にリスクコミュニケーションがはかれるようにステークホルダーとなる機関、平時から準備すること、体制の構築、パンデミック時の情報管理、リスクコミュニケーションの運用方法を今後の戦略としてまとめていく予定です。

もう少し知りたい！と思った方はこちらへ

- ・地域看護学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns_chiiki.html

- ・大学院保健医療学研究科看護学専攻地域看護学 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ns/ahfmc00000014r0.html